

<行動の教え方と支援について・冰山モデルを活用した行動支援について>

◆発達障がい教育・支援の6つの考え方+α

1. 発達障がいの特性理解を基本にする
 2. 個別化する
 3. アセスメントからはじめる
アセスメントとは、本人や周囲の環境を観察して調べること
 4. 実証された方法を活用する
実証された方法は、科学的で自閉症の特性にあった方法
 5. 目指すは自立
 6. 親やチーム間の協働を重視する
- + 発達の連続性を重視する

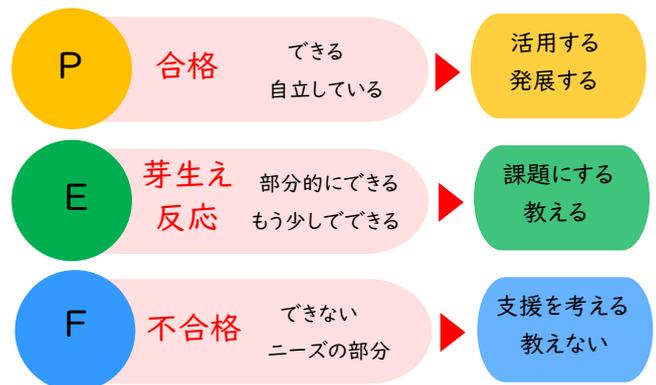
特性=文化:相手(ASD)の文化を知ってからこちらの文化へ誘う

支援ではなく自立

◆自尊感情/自己有用感が高まるためには

- ・親や先生や周囲から大切にされている感覚
- ・目標に対して、自分はできる、達成できると思える感覚

安心できる環境設定
視覚化した情報・構造化・認められる環境



※アセスメントから自立へ導く(課題と支援の割合を考える)

◆課題分析を行う

様々な要素を小さな行動単位に分けて記述すること(細分化し記述する)

- 課題分析の目的
- ・複雑なものを分かりやすくする
 - ・様々な活動、課題、スキルなどの成り立ちを整理する
 - ・アセスメントの準備として
 - ・個々の要素と全体の分析とプランニング
 - ・短期目標(課題)の抽出
 - ・モニタリングとして

課題分析の例
必要な道具を準備する
バケツに水を汲んでくる
布巾を濡らす
布巾を絞る
テーブルを拭く
布巾を洗って絞る
バケツの水を捨てる

◆指示の4つの階層

